

定住自立圏構想

中心市宣言書

「活力あふれ 豊かな心でふれあうまち」をめざして

平成22年3月25日

徳島県阿南市

中心市宣言

「活力あふれ 豊かな心でふれあうまち」をめざして

阿南市は、昭和33年の市制施行以来、恵まれた自然と多くの先人のたゆまぬ努力や市民の皆様の深い御理解により、幾多の試練を乗り越え、着実な歩みを続けてまいりました。

平成18年3月20日には古くから深いつながりのある那賀川町、羽ノ浦町を編入し、「足腰の強い、力のある自治体」として、また、名実ともに徳島県南部の中核都市として、堅実な発展とさらなる飛躍が期待されています。

その一方で、本市を取り巻く社会経済情勢は大きく変化しており、急激に進むグローバル化や少子・高齢化社会への対応、環境循環型社会への移行、高度情報化の一層の進展、といった新しい時代の流れに加え、本格的な地方分権時代の到来により厳しさを増す財政状況のなかで、地方自治体にとっては、その自立性と創造性、自己決定と地域経営の手腕・力量が問われているところです。

このような状況のなかで、本市においても、全国的な傾向と同様に少子・高齢化の進展は、生産年齢人口の減少及び地域経済やコミュニティの活力を低下させるとともに、保健・福祉・医療に対する行政需要がますます増大するものと考えられ、今後は、中心市の生活機能の整備と周辺自治体に確保されるべき機能が有機的に連携し、貴重な地域資源を最大限に活用しながら、「住みたい」「住みやすい」「住んでよかった」と思える“まち”を住民と議会、行政が協働し、「自立」のための経済基盤や地域の誇りを培い、魅力あふれる圏域を形成していく必要があります。

特に、本市においては、地域医療に関し、圏域に必要な都市機能としてその周辺自治体を含む圏域全体の暮らしに必要な機能として定住自立圏等民間投資促進交付金を有効活用し、公的病院・災害拠点病院での電子カルテの導入及び医療機器の整備による地域医療の水準向上に努めているところです。

このようなことから、定住自立圏構想推進要綱に基づき、本市を中心とした自立圏を形成する周辺自治体が連携・交流し、お互いの意思を尊重しつつ、具体的・有効的な役割分担のあり方を協議し、圏域内の住民に対し定住のため安全で安心な環境整備、必要な都市機能の更なる充実、魅力的・活力に充ちたひかり輝く圏域づくりに資するため、定住自立圏の中心的な役割を果たす「中心市」となることを、ここに宣言します。

平成22年3月25日

阿南市長 **岩 浅 嘉 仁**

定住自立圏形成の背景と取組

中心市となる阿南市と周辺地域に居住する住民の生活機能を確保するとともに、様々な地域資源を活用し、地域の魅力を向上させていくための基盤となる都市機能の集積状況及び周辺地域との連携や交流の状況、また、「集約とネットワーク」の考え方により展開しようとする取組は、以下のとおりです。

1 本市における都市機能の集積状況

| 分野 | 都市機能 | 施設名 | 備考 |
|--------|-----------|-----------------------|-------------------|
| 医療・福祉 | 公的病院 | 阿南共栄病院 | |
| | 災害拠点病院 | 阿南医師会中央病院 | |
| | 第二次救急医療施設 | 阿南共栄病院、阿南医師会中央病院、原田病院 | |
| | 公立診療所 | 加茂谷診療所 | |
| | | 伊島診療所 | |
| | 一般診療所 | 68一般診療所 | |
| | 歯科診療所 | 33歯科診療所 | |
| | 養護老人ホーム | 福寿荘 | (入所者数64人うち市外12人) |
| | | 羽ノ浦荘 | (入所者数50人うち市外45人) |
| | 特別養護老人ホーム | 阿南荘 | (入所者数120人うち市外10人) |
| | | 琴江荘 | (入所者数50人うち市外2人) |
| | | ライフイン長生 | (入所者数50人うち市外0人) |
| | | 健祥会バイエルン | (入所者数50人うち市外8人) |
| ヴィラ羽ノ浦 | | (入所者数50人うち市外21人) | |
| コスモスの里 | | (入所者数50人うち市外32人) | |
| | 緑風会ルネッサンス | (入所者数50人うち市外5人) | |
| 教育・文化 | 高等専門学校 | 独立行政法人国立高等専門学校機構 | |
| | | 阿南工業高等専門学校 | |
| | 高等学校 | 県立阿南工業高等学校 | |
| | | 県立新野高等学校 | |
| | | 県立富岡西高等学校 | |
| | | 県立富岡東高等学校 | |
| | | 県立富岡東高等学校羽ノ浦校 | |
| | 特別支援学校 | 県立阿南養護学校 | |
| | 職業訓練校 | 県立阿南テクノスクール | |
| | 図書館 | 阿南図書館 | |
| 那賀川図書館 | | | |
| 羽ノ浦図書館 | | | |

| | | | |
|-------|---|---|------------|
| 教育・文化 | 文化施設 | 科学センター（科学館） | |
| | | 牛岐城趾館（LEDドーム常設） | |
| | | 市民会館 | |
| | | 文化会館 | |
| | | ひまわり会館 | |
| | | 情報文化センター | |
| | | 阿波公方・民俗資料館 | |
| | | ふるさと館 | |
| | | ステーションプラザ | |
| | | スポーツ施設 | スポーツ総合センター |
| | | B & G 海洋センター | |
| | | 武道館 | |
| | | 橋体育館 | |
| | | 那賀川スポーツセンター | |
| | | 春日野体育館 | |
| | | 羽ノ浦総合国民体育館 | |
| | | 羽ノ浦健康スポーツランド | |
| | | 羽ノ浦プール | |
| | 健康増進施設 | 船瀬温泉保養センター | |
| 道の駅 | 公方の郷なかがわ | | |
| 交通 | 高規格幹線道路 | 四国横断自動車道（建設中） | |
| | 地域高規格幹線道路 | 阿南安芸自動車道（建設中） | |
| | 道路 | 国道55号、国道55号バイパス、国道195号 | |
| | 高速路線バス | 徳島バス、JRバス関東、京浜急行バス | 東京 |
| | | 徳島バス、JR四国バス | 神戸・大阪 |
| | 公共交通 | 徳島バス、阿南バス、市内循環バス | |
| 鉄道 | JR四国牟岐線（羽ノ浦駅、西原駅、阿波中島駅、阿南駅、見能林駅、阿波橋駅、桑野駅、新野駅、阿波福井駅） | | |
| その他 | 公園 | 西部公園、福井ダム公園、東部自然公園、王子農村公園、楠根桜つつみ公園、前川親水公園、ワンダーランド | |

2 都市機能の利用状況

(1) 阿南市内医療体制

| 内 訳 | 施 設 名 | 病床数 | 診療科目数 | 救急告示病院 |
|-----------|-----------------------------|-------|-------|--------|
| 公 的 病 院 | 阿南共栄病院 | 3 4 3 | 1 6 | |
| 災害拠点病院 | 阿南医師会中央病院 | 2 4 0 | 1 8 | |
| 第二次救急医療施設 | 阿南共栄病院 阿南医師会中央病院 原田病院 | 1 2 6 | 1 0 | |

(2) 阿南市公的病院及び災害拠点病院の地区別患者数 (平成20年度)

| 内 訳 | 阿南共栄病院 | | 阿南医師会中央病院 | |
|-------|---------|--------|-----------|-------|
| | 外来患者数 | 入院患者数 | 外来患者数 | 入院患者数 |
| 阿 南 市 | 125,290 | 67,028 | 26,246 | 3,809 |
| 那 賀 町 | 7,370 | 5,933 | 2,023 | 421 |
| 美 波 町 | 7,929 | 6,861 | 1,357 | 122 |
| その他町 | 22,456 | 14,018 | 3,063 | 463 |
| 合 計 | 163,045 | 93,840 | 32,689 | 4,815 |

(3) 文化施設 (平成20年度)

| 施 設 名 | 利用件数 | 利用者数(人) |
|----------|-----------|---------------|
| 市 民 会 館 | 6 7 0 | 5 5 , 5 7 5 |
| 文 化 会 館 | 2 1 3 | 3 6 , 2 6 0 |
| ひまわり会館 | 3 , 7 3 8 | 1 2 5 , 5 1 2 |
| 情報文化センター | 1 , 0 6 0 | 4 0 , 1 4 9 |
| 科学センター | | 1 7 , 8 7 9 |

(4) 図書館 (平成20年度)

| 内 訳 | 蔵書数 | 登録者数(人) | 利用者数(人) | 貸出冊子数 |
|--------|---------|---------|---------|---------|
| 阿南図書館 | 101,775 | 6,885 | 45,603 | 217,379 |
| 那賀川図書館 | 137,608 | 7,204 | 49,880 | 275,117 |
| 羽ノ浦図書館 | 72,965 | 4,801 | 34,274 | 217,951 |
| 合 計 | 312,348 | 18,890 | 129,757 | 710,447 |

(5) 市内駅の年間乗降客数

【JR四国牟岐線の市内主要駅乗降客数】 (平成20年)

| 内 訳 | 年 間 (人) | 1日平均 (人) |
|-------|---------|----------|
| 羽ノ浦駅 | 362,936 | 995 |
| 西原駅 | | |
| 阿波中島駅 | 99,444 | 273 |
| 阿南駅 | 597,099 | 1,636 |
| 見能林駅 | | |
| 阿波橘駅 | 51,293 | 141 |
| 桑野駅 | 53,179 | 146 |
| 新野駅 | 93,954 | 258 |
| 阿波福井駅 | | |

(6) 高速バス年間乗客数

【JRバスグループ(阿南駅～大阪便)】

| 年 度 | 乗客数(人) | 台数(台) |
|--------|--------|-------|
| 平成18年度 | 62,311 | 4,380 |
| 平成19年度 | 58,481 | 4,386 |

【JRバスグループ(阿南駅～徳島駅～東京便)】

| 年 度 | 乗客数(人) | 台数(台) |
|--------|--------|-------|
| 平成18年度 | 20,789 | 861 |
| 平成19年度 | 22,481 | 803 |

【徳島バス(東洋町～阿南駅～大阪便)】

| 年 度 | 乗客数(人) | 台数(台) |
|--------|--------|-------|
| 平成18年度 | 50,962 | 3,235 |
| 平成19年度 | 58,805 | 3,694 |

(7) 高等教育

(平成20年4月1日現在:人)

| 学 校 名 | 学 科 | 生 徒 数 | | | | | 教員・ 職員数 |
|------------|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----|------------|
| | | 阿南市 在住 | 那賀町 在住 | 美波町 在住 | その他 在住 | 合計 | |
| 阿南工業高等専門学校 | 本科・ 専攻科 | 235 | 26 | 10 | 575 | 846 | 101 |
| 阿南工業高等学校 | 工 業 | 253 | 10 | 37 | 60 | 360 | 59 |
| 新野高等学校 | 総合学科 | 215 | 0 | 9 | 11 | 235 | 44 |
| 富岡西高等学校 | 普通・理数 | 527 | 29 | 29 | 139 | 724 | 54 |

| | | | | | | | |
|-----------------|-------|-----|----|----|-----|-----|----|
| 富岡東高等学校 | 普通・商業 | 493 | 35 | 64 | 143 | 735 | 57 |
| 富岡東高等学校 羽ノ浦校 | 看護 | 52 | 7 | 22 | 105 | 186 | 24 |

(8) 商業立地状況 (平成19年商業統計調査) (単位: 数、人、万円)

| 内訳 区分 | 卸売業 | | | 小売業 | | |
|----------|----------|------|-------------|----------|-------|-------------|
| | 事業 所数 | 従業者数 | 年間商品 販売額 | 事業 所数 | 従業者数 | 年間商品 販売額 |
| 阿南市 | 135 | 738 | 29,087 | 924 | 4,224 | 65,299 |
| 那賀町 | 9 | 30 | 727 | 164 | 481 | 4,460 |
| 美波町 | 10 | 75 | 1,501 | 133 | 363 | 4,061 |

(9) 製造業立地状況 (平成18年工業統計調査)

| 内訳 区分 | 事業所数 (箇所) | 従業者数 (人) | 原材料使用額等 (万円) | 製造出荷額等 (万円) |
|----------|--------------|-------------|-----------------|----------------|
| 阿南市 | 195 | 8,088 | 26,265,607 | 37,128,696 |
| 那賀町 | 43 | 796 | 722,399 | 1,676,520 |
| 美波町 | 14 | 243 | 143,853 | 250,338 |

3 本市と周辺町との想定する連携事項

圏域全体の生活機能を整備し活性化を図り、人口定住の推進のため周辺町と連携する項目として、主に次のような分野を想定しています。

ただし、連携する分野は周辺町ごとに異なります。

(1) 生活機能の強化のための取組

圏域における地域住民が安心して暮らせる地域医療を目指し、中心市の病院を核にした病院連携、医師派遣、診療科目の充実、救急医療体制の整備・強化を図るとともに福祉、教育、土地利用、産業振興分野等においても連携強化を図る。

また、大規模災害発生時における相互応援協定を締結し、応援支援体制の強化を図る。

医療の分野

ア 公的病院と災害拠点病院の機能を分担し、地域医療を安定的に提供できる体制の構築を図る。

イ 公的病院、災害拠点病院と個人病院との連携強化を図る。

ウ 救急医療体制の整備・強化を図る。

エ 大規模災害医療救護体制の整備を図る。

福祉等の分野

ア 保育所の広域入所等子育てネットワークの連携を図る。

教育

ア 圏域内にある文化施設及び体育施設等について、圏域の住民が利用しやすいように使用料の市外料金区分を緩和し、住民交流の促進を図る。

イ 図書館情報の共有化、相互貸借の促進を図る。

土地利用

ア 放竹林への対応等土地利用のあり方に関する連携を図る。

産業振興

ア 鳥獣害防止対策として圏域内で連携し、農作物への被害防止を図る。

イ 圏域内相互のにぎわい創出に努める。

既存イベント等への相互参加を通して一層のにぎわい創出に努める。

大規模災害支援体制の充実

ア 大規模災害発生時における相互応援協定を締結し、ライフラインである水供給等、より効率的な応援支援体制の強化を図る。

その他

ア 葬斎場施設（火葬場、式場等）使用料の市外料金区分の緩和を図る。

（２）結びつきやネットワークの強化のための取組

圏域内の情報交換を密にし、住民の往来の活発化、日常生活圏の拡大により結びつきやネットワークを強化する。

また、食に対する安全・安心志向の高まりや生産者の販売の多様化が進む中で、消費者と生産者を結びつける地産地消の取組を推進し、農林漁業と関連産業の活性化、移住交流、観光、安全・安心分野においての連携強化を図る。

地域の生産者や消費者等の連携による地産地消

ア 食の安全志向が強まるなか、地域資源を活用し高付加価値化を進め、朝市、産直市により、圏域内での活性化、地産地消の拡大を図る。

イ 関係機関連携による学校給食等への地元食材導入の拡大を図る。

ウ ITを活用した生産情報の公開と販売管理を図り、安全・安心な生産物の供給を図る。

道路等の交通インフラの整備

ア 流通経路整備に係る取組に努める。

移住交流の推進

ア 圏域外からの移住交流を推進するための支援策等の強化を図る。

観光ネットワークの拡充

ア 地域資源を活用した観光ネットワークの相互拡充を図る。

安全・安心

ア 中心市の消費生活センターの有効活用

中心市に設置される消費生活センターを圏域内で有効活用し、圏域内の消費者相談窓口と連携して消費者相談や事件に対応できる体制の強化を図る。

伝統工芸や伝統芸能の継承

ア 圏域内の伝統工芸や伝統芸能を再認識するとともに、相互に歴史や風土から生まれた「技」を継承していく。

(3) 圏域マネジメント機能の強化のための取組

人材の育成・人材の確保の分野に対し、地域を牽引する人材確保・育成する取組を中長期的に進めていく観点から、教育・学習を通じてのボランティア意識の高揚と活動への参画を促進し、活動を活発なものとする支援体制の強化を図る。

中心市等における人材の育成

ア 世界遺産に登録しようとしている遍路道、四国の道等のごみ収集・清掃活動等地域リーダー育成のための学習機会の拡充を図る。

イ 各種ボランティア団体、グループ、NPO等の育成を図る。

圏域内市町の職員等の交流

ア ボランティア意識の高揚と活動への参画の促進を図る。

4 阿南市への通勤通学割合が10%以上ある町の名称

| 自治体名 | 常住する就業者数及び通勤者数 (A) | 本市への就業者数及び通勤者数 (B) | 通勤通学割合 (B)/(A) % |
|------|--------------------|--------------------|------------------|
| 那賀町 | 5,518 | 593 | 10.7% |
| 美波町 | 4,168 | 549 | 13.2% |

平成17年国勢調査(自宅就業は除く)